



平成25年度助成事業

社会的就労の取り組みを積極的に社会に発信！

団体名：特定非営利活動法人抱樸

事業名：若年生活困窮者に対する社会的就労提供事業

助成テーマ：貧困・格差対策等社会的支援（福祉的支援）を行う事業

助成区分：地域連携活動支援事業

助成金額：5,884千円

ここに注目

◆生活に困窮し、社会的に孤立している若者の状況に合わせて、「働く意義」や「生きる意味」などを伝えながら、社会的就労（就労訓練）の場を作り出しました。そこでは地域の人との交流の場をつくり、孤立からの脱却もはかっています。

事業の背景

◆2008年のリーマンショック以降、非正規雇用が労働人口の35%を占め、特に若者はその割合が高く、若者の生活保護受給者が増加しています。たとえ就職できても就労の継続自体が不安定な時代になっています。こうした若者の中には、就労以前の「生活自立」や「社会的自立」に困難を抱えている方も多くいるといわれています。また、経済的困窮が社会的孤立を生み、「働く意義」や「生きる意味」などを見出せない若者が増えている現実もあります。

◆このような若者にとって、現在あるハローワーク等の求職活動を通じた一般就労という枠組みでは解決できないケースが多くあります。団体は、「一般就労ができなければ生活保護受給」ではなく、本人に社会的就労（就労訓練）の場を提供し、必要に応じて生活保護によって所得を補足し、社会参加を通して生活の質の向上を図っていくことの必要性を感じていました。そこで、他事業で実施した就労準備のための研修とあわせて、生活に困窮した若者の状況に寄り添った包括的な伴走支援を行いながら就労に結びつけ、労働対価を得ながら自己有用感を高めて、生活面での安定を図りたいと考え事業を立案しました。

事業概要

◆生活困窮かつ孤立に至る複合的要因を抱え、すぐには一般就労が難しい若年者に、訓練場所や個々に応じて就労を目指しステップアップし、社会的自立、就労自立を目指すことを目的に、訓練や社会参加に重点を置いた社会的就労の場を提供、日常的なケア、就職支援、就労継続支援などを実施しました。

◆地域住民と協議し、協力のうえ、社会的就労（就労訓練）の場となる惣菜製造事業所「笑い家」を開設し、週4日、就労訓練を実施しました。対象者の状況を見て、協力企業や社会的企業での訓練を受け一般企業での就労を目指す訓練的要素の強いステップアップを前提とした就労と、社会参加に重きを置いた福祉的就労の2つのメニューを設け実施しまし



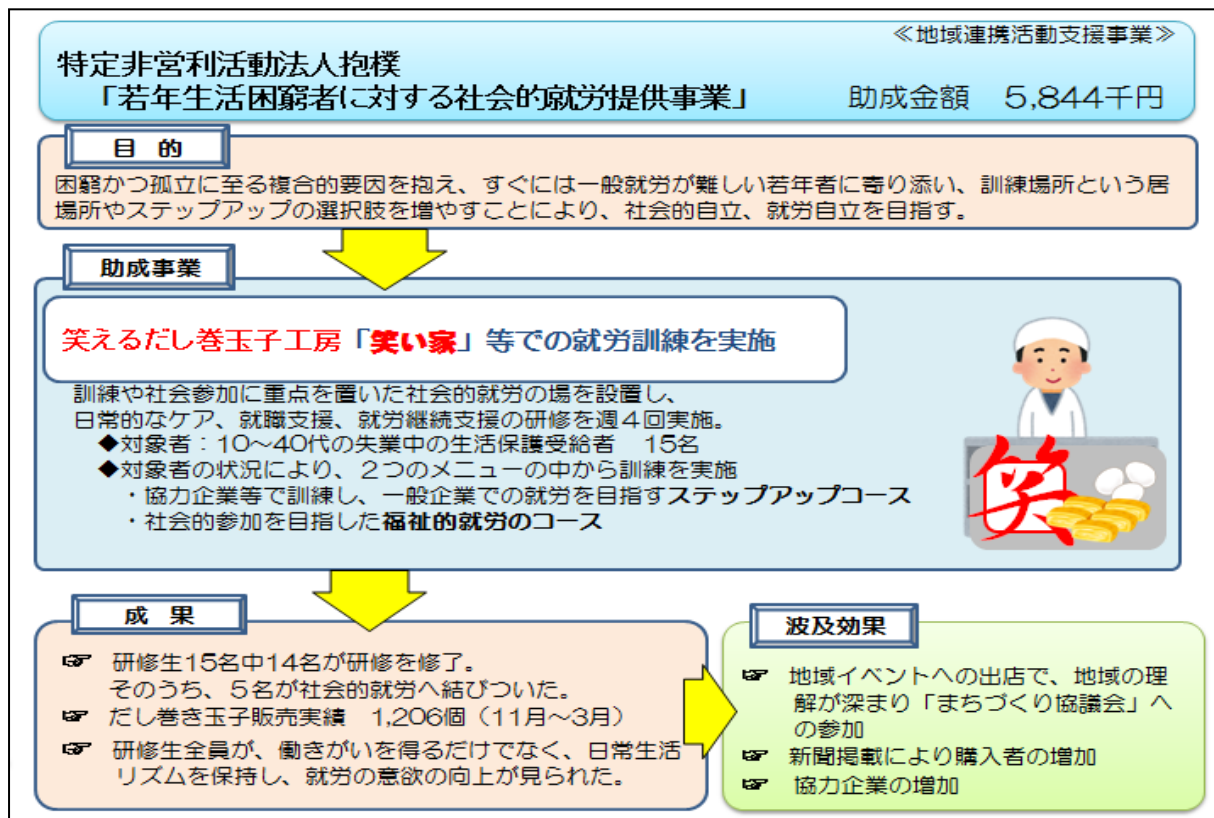
た。

◆平成25年度事業においては7人が就労訓練・体験に参加しました。社会的就労（就労訓練）の場を提供することにより、研修前には引きこもりがちであった訓練生が、欠席せずに参加し、また他の訓練生に対し指導的役割を担うなど、働きがいを得るだけでなく、日常生活リズムを保持し、就労意欲の向上を図ることができました。

外部有識者のコメント

事業の成果は非常に高い水準にある。協力企業との連携による就労訓練は効果的であり、かつ仕出し・惣菜製造業という地域とのつながりを持った事業に取り組んでおり、着眼点が良い。

さらに取り組みについての「発信力」があり、本事業の社会的波及効果や他の同種の若者の就労支援の在り方への具体的な提案やモデルを提示しており、これから進めていかなければならない自立支援事業などにおける好事例といえる。



成果物

◆惣菜製造業チラシ・ポスター、◆惣菜製造業「笑い家大蔵通信」、◆報告書

お問い合わせ先

〒805-0015 福岡県北九州市八幡東区荒生田2-1-32
 特定非営利活動法人抱樸〈ほうぼく〉(旧団体名：北九州ホームレス支援機構)
 TEL 093-653-0779 HPアドレス：<http://www.houboku.net/>

